

(公開学習Ⅰ) 小学校第1学年1組 生活科学学習指導案

授業者 新 康江
小学校1年1組教室

1 単元名 「わくわくランド」へようこそ

2 授業構成

(1) 教師と教材

本単元は、新学習指導要領の次の内容に位置づけられている。

- | |
|---|
| (6) 身近な自然を利用したり身近にある物を使ったりなどして、遊びや遊びに使う物を工夫してつくり、その面白さや自然の不思議さに気づき、みんなで遊びを楽しむことができるようにする。 |
| (8) 自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え合う活動を行い、身近な人々とかわることの楽しさがわかり、進んで交流することができるようにする。 |

本単元では、秋とかかわるさまざまな活動を通して、季節の変化に気付くとともに身近な人や自然とふれあう楽しさを味わうことができることをねらいとしている。子どもたちが自然とふれあい、楽しみながら遊ぶことで、季節の変化や自然のよさに気づき、自分の生活を豊かにしていくと考えた。また、これまで交流してきた幼稚園児を招待し、友達とともにみんなが楽しめるわくわくランドにしていく活動においては、達成感と満足感を得ることができ、自分のよさや成長にも気付いていくと考える。また、1年生が幼稚園児や2年生と遊びを通して交流することは、人間関係を築いていく上でも貴重な体験となる。いろいろな人とふれ合いかわり合う中で、自分や友達のよさに気づき、相手を思いやることや協力することの大切さを実感してほしい。そして、一つの活動をみんなでやり遂げる充実感も味わわせたいと考えている。

本時は、わくわくランドでのそれぞれの活動を紹介し合い、工夫したことやがんばったこと、わくわくしたことを伝え合う中で、成就感や次の活動の意欲へとつなげていきたい。

(2) 子どもと教師

本校の生活科では、「自分づくりの力」「かかわる力」を育てたい力として学習活動に取り組んでいる。特に、「自分なりに課題を見つけ、主体的にかかわろうとする力」「かかわりの中から気づきを広げ、深めようとする力」さらに「自己の願いや思いを豊かにし、生活に生かす力」を育てたいと考えている。

本学年の児童は、これまで附属幼稚園の友達と、5月に運動公園で、7月には本校の「おもちゃランド」で、そして9月には幼稚園でとこれまで3回の交流を行ってきた。なかでも2回目の「おもちゃランド」では、身近な材料で12の手作りおもちゃや体験コーナーを準備し、幼稚園の友達を招待し一緒に遊んだ経験がある。本単元では、園児を再び招待し、一緒に尚徳の森で秋の自然そのものにたっぷりと浸ったり、秋の素材を生かしてより創造的な遊びの場づくりをさせていきたいと考える。また、幼稚園との最後の交流となる今回、みんなが楽しめる「わくわくランド」にしたいという一人一人の思いをまず大切にしたいと考えた。さらに、「みんなが協力し工夫をすれば、もっと楽しくなる」ことを実感するために、グループ活動を中心に単元を構成することにした。そして、より知的な活動へと高めていくために友達と対話する場を多く設けていきたい。実際に遊びを体験しながら、「もっとこうしてみたら」というアドバイスを友達と交流し、共有することで、新たな気づきを生み出すことにもつながっていく。活動の中で子どもたちは、園児にわかりやすく遊び方の説明をしたり、上手くできたときは一緒に喜んだりすると、さらにわくわくし楽しく遊べることに気付いていくと思われる。みんながなかよくきまりよく遊べるようなルールや約束、場のセッティングについても思考錯誤しながら子どもたち自身が追究し、見通しをもって取り組んでいくことで主体的な活動となるであろう。2年生主催の「おもちゃまつり」に招待してもらったとき2年生から学んだことを今度は自分たちが計画するわくわくランドに生かしていきたい。上学年から受け継いだ思いをまた園児へとつないでいくことは、本校のめざす「学びの連続」とも言える。園児や2年生と遊ぶ活動を通して、主体的にかかわろうとする力も培われ、コミュニケーションの深まりも期待できると思われる。

本時は、めざす3つの力のうち、「かかわりの中から気付きを広げ、深めようとする力」に重点を置くことにした。

(3)子どもと教材

本単元では、「学びの連続」として「出会う」「活動する」「伝える」を段階的に設定し、「計画する」「交流する」という活動も取り入れながら、授業を構成した。まず、「出会う」では、秋見つけを通して子どもたちが自然からの贈り物のよさを感じ、秋の素材を生かしてみんなが楽しめるわくわくランドを創り上げようとする意欲をもたせたい。「活動する」では、お互いの思いを聞き合い、対話をさせながら協力し合うよう促したい。声をかけたり問いかけしたりしながら遊びの発展を見取り、園児を意識したかかわりができるよう支援したい。そして、自分たちの思いや願いがいっぱいつまったわくわくランドにするために、子どもたちの発想や願いを尊重することを第一に考え、活動を支援したい。本時の「伝える」で活動や体験での学びをより確かにするために、まずは自分のわくわくした思い、友達とのかかわりから感じた喜び、やり遂げた満足感をしっかり振り返り、まとめさせておきたい。学習のはじめに一人一人が「こんなわくわくランドにしたい」と思い描いていたことがどれだけ実現できたか振り返る中で、具体的な成果や新たな課題も見えてくる。友達に「伝えたい」という強い思いを膨らませ、本時では、活動を通して味わったわくわく感や喜び、そして交流から気付いたお互いの工夫やがんばりを伝え合わせたい。そのために、「何をどのように伝えたいのか」を各グループでしっかり認識できるよう働きかけていきたい。また、お互いの意見発表を聞き合いながら、自分たちの思いと重なるところにも着目させたい。この単元を通して学んだことを伝え合うなかで、一人一人の学びを深くし気づきの質を高めたいと考える。さらに、自分や友達のがんばり、お互いの成長にも気付いていくことを期待している。

3 単元の目標

[生活への関心・意欲・態度]

○秋の自然に関心を持ち、自然の材料を使って製作や遊びを工夫しようとしている。

●友達と協力しながら進んで計画・製作にかかわり、園児や2年生と楽しく交流しようとしている。

[活動や体験についての思考・表現]

○自然や材料を使って、遊んだことや見つけたこと思ったことなどを絵や文章で表すことができる。

●「わくわくランド」での交流を成功させるために、遊びを工夫し自分なりの思いや願いをもって活動したことを表現することができる。

[身近な環境や自分自身への気付き]

○秋見つけや製作活動を通して、秋の自然や遊びの楽しさに気付くことができる。

●「わくわくランド」を友達と協力して創り上げていく大切さや、そこでの自分や友達のよさやがんばりに気付くことができる。

4 学習計画（全15時間）

第一次「尚徳の森」で秋を見つけよう（2）
第二次「わくわくランド」をつくろう（6）
第1時「わくわくランド」の計画を立てよう①
第2～5時 コーナーづくりをしよう④
第6時 わくわくランドの準備をしよう①
第三次「わくわくランド」で秋と遊ぼう（4）
第1～3時 幼稚園さんとなかよし交流会をしよう③
第4時 2年生とわくわくランドで遊ぼう①
第四次 わくわくランドの活動をふり返ろう（3）
第1・2時 活動のまとめをしよう②
第3時 わくわくしたことを伝え合おう（本時）

・秋でつくろう(1)
(図工)

・こんなわくわくランド
にしたいな(1)(国語)

・2年おもちゃまつりに
参加しよう(1)(学活)

5 本時の学習について

(1) 本時目標

今までの活動からわくわくしたこと（発見・喜び）を伝え合ったり話し合ったりすることを通して、一緒に遊ぶことの楽しさや自分と友達のよさががんばりに気付くことができる。

(2) 期待される児童の様相

- A 「わくわくランド」を友達と協力して創り上げていく大切さやそこでの自分や友達のよさががんばりに気付く。
- B 幼稚園の友達や2年生をわくわくさせるために、工夫しがんばったことや、一緒に遊んだ嬉しさや楽しさを、グループの友達とともに協力して伝える。
- C 「こんなわくわくランドにしたい」という自分のめあてが達成できたかをふり返るとともに、自分自身が思いをもってがんばったことや工夫したこと、嬉しかったこと・楽しかったことを伝える。

(3) 本時の展開 (○教師の意図 ◇全体への支援 ◆個への支援)

学 習 活 動	教師の支援・意図
1. 前時までの学習を想起し、本時のめあてを確認する。	○前時のグループ発表をふり返り、わくわくした楽しさやがんばり、工夫を紹介し、本時の学習への意欲づけをする。
わくわくしたことをともだちとつたえあおう。	
2. 各グループで、わくわくしたこと・発見・喜びを紹介し合う。 ○秋レストラン ○ファッションショー・楽器づくり ○どんぐり遊び ○まとあて遊び ○そり遊び ○秋のアート	○紙芝居や写真、実物の提示、実演・劇化など様々な方法で、活動の様子や思いを友達と協力しながらわかりやすく伝えさせたい。 ◆秋の素材をどう活用したのか、幼稚園の友達をわくわくさせるためにどんなことをがんばったのか、どんなことが嬉しかったのかをまとめておき、自分の言葉で伝えさせる。(C→B) ◇各グループの発表を聞き、自分の思いとの共通するところや相違するところを出し合うように促す。
3. 「わくわくランドへようこそ」の学習で自分や友達のよさががんばりについて話し合う。 ・やり方を教えてあげられたことがよかった。 ・幼稚園さんもすごくがんばってアートや楽器をつくっていた。 ・2回目の交流会のときは、させてあげて見ていたけど、今度はいっしょに遊べた。 ・秋をいっぱい取り入れるよう、どの班も工夫して一生懸命つくっていた。 ・みんなが幼稚園さんや2年生のことを考えて、準備をしたり、進んで声をかけたりしていた。 ・役割を決め、協力して活動していた。	◆学習始めの「こんなわくわくランドにしたい」という一人一人の思いを想起させ、どれくらい達成できたか、どのようにがんばろうとしたのかを振り返らせておきたい。(D→C) ◆今までの交流会での園児とのかかわりと比較し、最後となる今回は、喜んでもらいたいという強い相手意識が感じられたことを実感させたい。(B→A) ○友達との協力や助け合いがあったからこそ、わくわくランドがわくわくしたものになったことを確認し、これからもみんなが力を合わせて、みんなが楽しく生活できる「わくわく1年1組にしていこう。」と教師の思いを伝えたい。